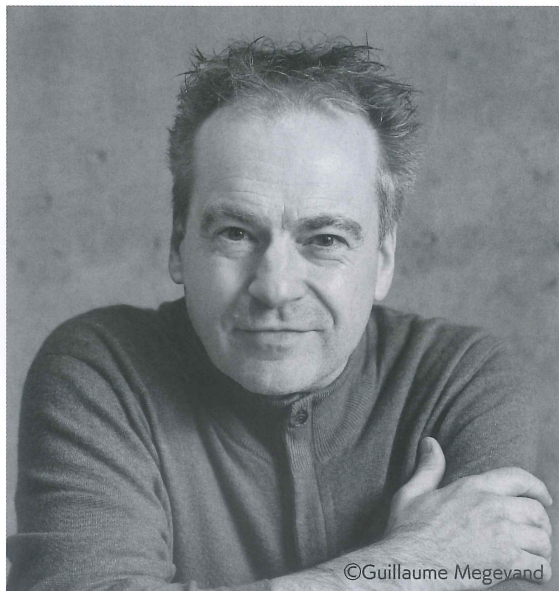




©Guillaume Megevand

指揮 ジョナサン・ノット

Jonathan Nott, Conductor

1962年イギリス生まれ。シューベルト、ブルックナー、マーラー、ショスタコーヴィチから現代作品に至るまで、幅広いオーケストラ音楽のレパートリーを誇る。ドイツの歌劇場で指揮者としてのキャリアを歩みはじめ、オペラへの深い造詣はこのジャンルに的確で感動的な演奏スタイルをもたらしてきたほか、バンベルク響などのポストを経て、2012年から東京響の音楽監督、14年からはスイス・ロマンド管の音楽監督/芸術監督を務める。また、名高い現代音楽オーケストラやアンサンブルと共演し、リゲティ、ブーレーズ、ラッヘンマン、シュトックハウゼンら現代屈指の作曲家たちはもとより、自身と同世代の作曲家たちからも信頼を寄せられてきた。教育活動にも熱心で、若き音楽家たちをインスパイアしている。ベルリン・フィルとのリゲティの管弦楽作品全集やバンベルク響とのシューベルトやマーラーの交響曲全集、ウィーン・フィルとの「大地の歌」など録音も多い。



©Hitoshi Iwakiri

ヴァイオリニスト

HIMARI

HIMARI, Violinist

2011年東京生まれ(13歳)。3歳よりヴァイオリンを始め、6歳でプロのオーケストラと共演。2022年、最年少でフィラデルフィアの名門カーティス音楽院に入学し、現在、教育者として広く尊敬されているアイダ・カヴァフィアンに師事している。2025年3月に、巨匠ズービン・メータ率いるベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、定期公演にソリストとして共演。2024年12月31日にはフィラデルフィア管弦楽団が開催する「New Year's Eve Celebration」で、卓越した才能をもつ指揮者マリン・オルソップと共演。また、2024年11月末から、13歳にして自身初の国内リサイタルツアー「HIMARI Violin Recital Tour 2024」を東京・大阪・名古屋・福岡で開催。2025年はジョナサン・ノット率いるスイス・ロマンド管弦楽団の日本ツアーのソリストをはじめ、国内外で数々の公演を予定している。



©Niels Ackermann

オーケストラ スイス・ロマンド管弦楽団

Orchestre de la Suisse Romande

スイス・ロマンド管は、1918年にアンセルメによって創設。以後サヴァリッシュ、シュタイン、A. ジョルダン、ヤノフスキらが率い、現在の芸術監督はノット。長年にわたり、歴史的な名録音と、20世紀フランス・ロシア音楽の演奏で確固たる国際的名声を誇る。ストラヴィンスキー、ミヨー、オネゲル、F. マルタン、デュサパンらの新作を初演してきた。海外ツアーも多く、ルツェルンやBBCプロムスなどの国際音楽祭にも出演。2019年からアーティスト・イン・レジデンス制度を始め、これまで作曲家のジャレル、ヴァイオリンのF.P. ツインマーマンらを迎えた。2022年からはアシスタント・コンダクターのポストも創設し、24年からは才能ある女性指揮者に限定募集していく方針である。



※やむを得ない事情により出演者、曲目等が変更になる場合がございます。公演中止を除きお買い求め頂きましたチケットのキャンセル・変更等はできません。※いかなる場合もチケットの再発行は行いません、紛失等には十分ご注意ください。※開演後の入場については入場制限をさせていただきます。※当館駐車場は、とりぎん文化会館、図書館、公文書館の共同駐車場です。(ハートフル駐車場9台) ※台数に限りがございますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。※満車の場合は、鳥取県庁の地上・地下駐車場(無料・平日は17:15~22:00)、県庁北側駐車場(無料・24時間開放)のほか近隣の有料駐車場をご利用ください。